

国産木材を積極的に使いましょう！

木材利用は森林の適正な保全に繋がります！

出典：平成30年度森林・林業白書（林野庁）

森林は、日本の国土の7割を占め、その4割が木材を収穫するために育てられている「人工林」です。

人工林は、適切に間伐し、収穫後は新たに苗木を植えることでバランスのとれた状態を維持することができます。

適正に保全された森林は 様々なメリットをもたらします。



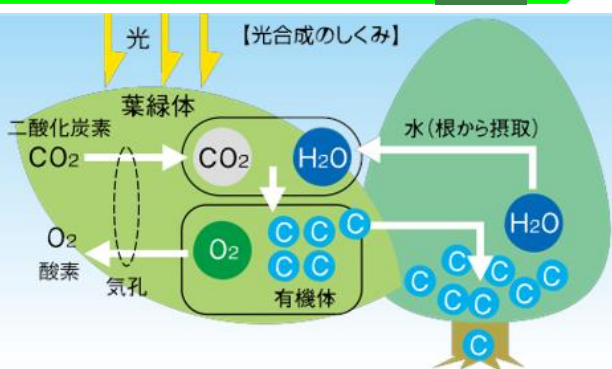
土砂崩れ防止、水源涵養、生物多様性保全



適正に保全された森林の木は、幹が太く成長し、しっかりと地中に根を張り巡らせ、土砂崩れを防いでくれます。根がしっかりと張った土壌は、雨水をたっぷり貯え、ゆっくりと川へ流す機能を持つため、局所的な短時間豪雨による洪水や、渇水時の水不足を防いでくれます。

また、適切に間伐を行った森林では日光が地表まで届きます。そのため、様々な下層植生が育ち、多くの動物が生息する森の生態系を形成します。森林の中を歩いてミネラルをたっぷり含んだ水は川や海のプランクトンの生育を助け、水中の生態系も豊かにします。

地球温暖化の防止



出典：林野庁HP

樹木は、大気中の二酸化炭素と根から吸収する水分を原料とし、太陽の光エネルギーを使って糖を合成し、幹や根、枝葉を形成します（植物の成長）。

若い樹木は地球温暖化の主な原因である二酸化炭素を吸収しながらどんどん大きくなりますが、成長がピークを迎えると吸収量が低下します。そのため、収穫期を迎えた樹木は積極的に木材として活用し、新たに苗木を植えることが大切です。

資源循環型社会の構築



コンクリートの骨材（岩石）や、鉄骨・鉄筋に使う鉄鉱石などの資源は、使用し続けるといつか枯渇してしまいます。これに対して木材は再生産が可能な「持続可能な資源」です。

また、木材は、製造・加工時に消費するエネルギーが、コンクリートや鉄と比べて小さく、環境にやさしいとされています。

国産木材を積極的に活用し、大切な森林を守りましょう！

〔大阪市環境局環境施策部環境施策課〕

大阪市公共建築物等における木材利用基本方針（平成28年3月策定）

大阪市は、森林の適正な整備・保全、地球温暖化防止、資源循環型社会の形成等に貢献するため、平成28年3月に「大阪市公共建築物等における木材利用基本方針」を策定し、持続可能な資源である木材の利用の促進に努めています。

今、木材が注目されています。

2020年東京五輪の主会場である新国立競技場の屋根に47都道府県の木材が使用されるなど、建築物への木材利用に注目が集まっています。

建築基準法の改正によって、木造建築物や木材をそのまま見せる（あrawし）等の基準が見直され、木造・内装木質化のメリットがより一層発揮できるようになりました。

木材には、湿度を調節する働きやリラックス効果など、優れた機能があることが分かっています。大切な森林を守ることにつながるほか、快適で健康にもよいということで、木材の利用に注目が集まっています。

建築物に木材を利用するメリット

調湿効果

乾燥する冬は水分を放出し、蒸し暑い夏は吸収することで、湿度を調整し、カビなどの増殖を抑えます。

断熱効果

木材を構成する細胞ひとつひとつに空気が含まれるため、高い断熱性を有しており、夏は涼しく、冬は暖かい空間を形成します。

リラックス効果

木の香りの成分には鎮静作用やストレスを抑える効果があり、集中力を高める働きがあることがわかっています。

衝撃吸収

転倒時の怪我を防止

その他

紫外線や音を吸収する等様々な効果があります

コラム：大阪市西区 大阪木材仲買会館

見学も可能！



国産木材をふんだんに使用し、木のぬくもりと自然が感じられる「都市の中の森」とも呼べる魅力的な景観が創出されています。（2013年竣工）